

加工・業務用タマネギの基肥一発体系を 確立しました

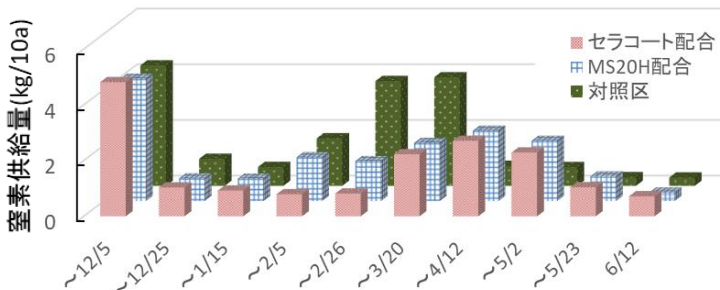
本県での秋定植、春から夏どりの加工・業務用タマネギの施肥体系は、基肥と2月上旬と3月上旬の追肥2回を基準としています。しかし、追肥時期は天候不順で作業遅れが発生しやすく、また、加工・業務用タマネギの生産者の多くが営農組合であり、追肥時期は他品目の作業が重なって適切なタイミングで追肥できないことが多く、追肥作業の省力化が求められています。そこで、追肥を必要としない緩効性肥料を用いた基肥一発体系を確立しました。

基肥一発肥料の窒素配合割合

	セラコート配合	MS20H配合
施肥量 (kg/10a)	セラコートRL40(N7.2)	スーパーIBS222(N12) 61.5
	セラコートR25(N6.3)	MS20H(N41) 18
	LPS30(N1.8)	グリーン化成444(N14) 20
	速効性窒素(N2.7)	
	98	

*土づくりとしてBM苦土重焼燐を40kg/10a加えた。

重焼燐2号および硫酸カリでN : P2O5 : K2O = 17.6 : 26 : 17.6に調整した。



*速効性窒素肥料は施用後すぐに溶出したとした。各施肥量と緩効性肥料の溶出率から算出した。

セラコート肥料については測定した地温からシミュレーションし溶出率を算出した。他の緩効性肥料については溶出試験から得られたデータを用いてモデルを作成した。

被覆尿素肥料の溶出率から推定した期間別窒素供給パターン(平成29年作)

生育調査

	葉鞘径(mm)		葉数(枚)	
	3/14	4/5	3/14	4/5
慣行栽培体系	6.7	13.7	4.5	6.1
セラコート配合	7.1	13.7	4.7	6.3
MS20H配合	6.6	13.4	4.7	6.1

収量調査

	収量 (t/10a)	一球重 (g)	個数割合 (%)
慣行栽培体系	8.1	404.6	93.0
セラコート配合	8.4	404.1	95.0
MS20H配合	8.7	414.7	95.8

*直径7cm以上の健全株を可販とする
収量は10aあたり約24240株で算出

(研究成果)

- ・基肥一発体系には、慣行栽培体系の追肥時期である2～3月に肥料の溶出のピークを迎える、セラコート肥料が配合された基肥一発肥料、又は、緩効性肥料MS20Hを配合した基肥一発肥料を使用します。
- ・基肥一発体系の生育、収量は、慣行栽培体系とほぼ同等となります。
- ・セラコート配合基肥一発肥料の販売価格を例に基肥一発体系の経済性を試算すると、10a当たりの経費が慣行栽培体系25,244円(肥料代、追肥にかかる労働費)に対し、基肥一発体系21,600円(肥料代)となり、基肥一発肥料の増額分は、追肥作業の労働費と同等かそれ以下となります。